

## 九州東海大学 工学部 情報システム工学科

九州東海大学は、森の都熊本市に白川を望む熊本校舎（工学部）と雄大な阿蘇山の一角をしめる阿蘇校舎（農学部）の2つのキャンパスがあります。本学は学校法人東海大学の中にあり東海大学とは緊密な連繫をたもちつつ、ユニークな構想の実現に向けて努力しております。

熊本には、かつて神風連があり、横井小楠を生み、そして崇高な理想をもって東海大学を創立した松前重義総長を育んだ土地柄であります。この熊本の地に地元産業界の要望に応じて、昭和48年4年制の大学として発足した活力に満ちた青年期の大学であります。

本学では、新しい時代に要求される科学技術者が、ただ専門的知識をもつだけでなく幅広い視野をもち創造性豊かな人材でなくてはならないという見地から、工学部では多くの分野で活躍できるエンジニアを社会に送り出すことを使命と考えております。工学部は電気・機械・土木・建築・経営管理・電子情報と昭和62年4月に新設されたばかりの情報システム工学科の7学科からなっております。

情報システム工学科は、高度情報社会に活躍する情報技術者・研究者の育成を目的として設立されました。情報技術者には、ハードウェア（機械）とソフトウェア（計画・運営・処理）の両面が必要ですが、ハードウェアは昭和61年度に開設された電子情報工学科が受けもち、情報システム工学科はソフトウェアの技術者・研究者を育成いたします。

〔情報システム工学科のカリキュラムの特長〕

- (1) 情報社会に強いニーズのある社会情報システム、産業情報システム、情報処理、システム工学の4分野をその柱として構成している。
- (2) 情報システムの基礎的な理論だけでなく実際の適用システムについても十分な科目を準備している。
- (3) システムの計画・運営・処理の技術には、多くの手法が必要であるが、それを実学によって体得することが大切である。そこで、実験、実習、演習を多く取り入れたカリキュラムを構成している。
- (4) 学生に1人1台のコンピュータを準備し、これを専用に実験・実習ができるように設備をレイアウトしている。

トしている。

- (5) アプリケーションシステムとして、OA (Office Automation), FA (Factory Automation), POS (Point of Sales), 画像情報システム, データベースシステムなどがあり、これらの実験設備も完備している。

情報システム工学科卒業後の進路は、情報社会を反映して非常に幅広いものとなっており製造業、システム販売商社、エンジニアリング企業、情報処理企業、銀行、デパートをはじめとする情報システム導入企業、官庁、学校、病院、公共団体などコンピュータ導入のサービス業、娯楽企業などその他コンピュータシステム導入の多方面が考えられます。

本学科の1学年の定員は60名で、指導にあたる教員は教授4名、助教授・講師5名、その他で構成されています。主な専門科目を前に述べた4つの分野に大別すると次のようになります。

(情報処理)

コンピュータ概論、プログラミング言語論、計算機構成論、情報構造論、データ解析および演習、画像情報処理および演習、その他

(システム工学)

情報システム総論、システム工学、システム分析設計論、システムシミュレーション、その他

(社会情報システム)

社会情報システム、情報心理学、社会調査方法論、社会通信システム、その他

(産業情報システム)

会計システム序論、原価情報システム、経営情報システム、管理工学通論、FAシステム、その他

これらの他に実学を重視することから、プログラミング実習1、プログラミング実習2、社会情報システム設計実習、産業情報システム実習等の多くの実習科目を取り入れ、各種コンピュータを利用し、学生が実習によって体得できることをねらっております。また研究については、東海大学の大型コンピュータでの共同利用ができます。

特にオペレーションズ・リサーチは、2年次の必修科目（4単位）であり、システム設計を行なう上で重要な役割をもっており、その内容は、ひとつおりの手法の解

説とその応用性に重点をおいております。また本学科のOR学会員は、社会システムや産業システムに関する研究を行なっております。（定方 希夫）

## 流通経済大学 経済学部 経営学科

常磐線佐貫駅からスクールバスで約10分、竜ヶ崎市の丘の上に流通経済大学がある。昭和40年、日本通運(株)をはじめとする産業界の支援を受けて設立され、流通経済を中心とする研究教育機関としてユニークな特色をもつ。

現在は、経済学部2学科の単科大学であるが、昭和63年に社会学部の増設を予定している。

経済学部経営学科では、経営学、会計学という学科固有の領域はもとより、それ以外に、流通、情報関係科目を2本の柱として置き、本学付属の流通問題研究所、情報処理センターの協力のもとに研究、教育を進めている。おもな流通、情報関係科目には、次のようなものがある。

(流通)

流通概論……2年次

流通経済総論、物的流通論、交通計画論 海運論、倉庫論、貿易論、保険論、広告論 市場調査論、国際物流論、商店街再開発論 流通情報システム論、宅配論、商業英語	} 3年次 4年次
--	--------------

(情報)

コンピュータ科学、プログラミング実習Ⅰ……1年次

プログラミング実習Ⅱ……2年次

情報処理論、事務情報管理論 } 3年、4年次  
オペレーションズ・リサーチ }

このように、流通経済という校名にふさわしいユニークな流通関係科目が開講されている。したがって、スタッフの中には実務経験豊富な産業界からの研究者も多く、研究、教育の両面で刺激を与えている。

また、情報関係科目は、講義とともに演習に力を入れ、情報処理センターをフルに活用している。情報処理センターには、中型汎用コンピュータと35台の端末、そ

してパソコンが設置され、登録者はそれらを自由に使用できる。近年は、情報処理技術者試験をめざす学生が増え、センターではそのための指導も行なっている。

ORは、3年の選択必修科目として置かれ、毎年50人前後の受講者数がある。文科系で数学にそれほど強くない学生が多いので、講義では、理論の厳密な証明などは省き、各手法の考え方とその適用に重点を置いている。内容は、PERT/CPM、LP、待ち行列、物流・在庫などで、問題の処理にはコンピュータ（おもにパソコン）を積極的に利用している。たとえば、PERT (TIME, MANPOWER, CPM) では、作業の所要時間、人数などに各自の生年月日や学籍番号を用い、1人ずつ問題を変えてレポートさせている。学生はしくみを学ぶためには、はじめは手計算でやるが、提出日に各自パソコンに入力し、その出力結果とともに提出する。50人分のそれぞれの問題の採点の手間が省けるとともに、プログラミングのできない学生にとっては、パソコンでの答え合わせに目を輝かすことになる。

経営学科の専任スタッフは11人、学生数は1学年180名ほど、卒論が必修になっており、3年次から専門ゼミに入る。筆者の研究室の卒論テーマは、生産システムの設計、製造業の立地問題などが多いが、最近シミュレーションを用いる論文が増えつつある。

また、姉妹校である北京经济学院から助手クラスの教員が毎年交換留学生としてきており、おもに、流通、生産管理などをテーマに研究に励んでいる。そのまじめな勉学態度に日本の学生たちは目を丸くしているが、いい刺激にもなっている。（百合本 茂）

### ● お知らせ ●

OR学会のポスターができましたので、必要な方は学会事務局までお申し出ください。